# 秋植球根草花の作り方

早春他花にさきがけて花園を賑わすクロッカス、ヒヤシンス、チューリップ等の球根類はその名が示す通り前年秋に植込むもので、春になつて根付のまま移植しても根が弱く活着せず開花し損つたり枯凋して球根までが駄目になつてしまうから注意を要する。

**植込み時期**　札幌附近では八月下旬から九月下旬までが植込みの適期であるが、水仙、百合の姫、透しの系統はやや早目に八月下旬までに植込めば成績が良い。チューリップは比較的晩植えが可能で十月に入つてからでも差支えないが、早咲グラジオラス、イリス類は寒地では早植えを避けて十月以降が好結果を収められる。

百合、水仙等は特別な事情のない限り他の球根類と違つて毎年掘取りせず二〜三年はそのままにして置く。

**植込み方法**　球根の栽培距離は同一種でも球の大小、栽培の目的によつて異なり、切花・花壇等は別表基準（球根の育成の場合における成球栽培）より狭くする。

覆土は圃場の土質により軽い土、乾燥し易い畑地であれば基準より深くし、重粘土または多湿なところは薄くする。しかし浅過ぎると地上部の生育が劣り分球が多くなり、深過ぎれば生育困難となる場合も生じて来る。本道のように土壌の凍結が甚しく殊に積雪の少ない地方では、冬期間だけは球根の凍害を避けるよう覆土を厚くし、四月上旬頃に基準程度に薄くする。百合の鉄砲・為朝等の暖地系の百合及びアネモネ等は球根を貯蔵して置き春植すれば安全である。

雪印改良鉄砲百合

切花・球根育成等の営利栽培の場合は普通平床（幅六〇〜九〇㌢とし、床間三〇㌢を通路をとる）植とするが、高性の鹿の子百合等の成球育成は畦幅四五㌢、株間一五㌢に一球植とする、家庭花園の場合は灌木性の花木や多年性草花の株間を利用して一カ所に一品種五〜一〇球位を植える。

植込みに当り芽は必ず上方に向け、側方または下方に向けぬようにする。植込みは予め整地してある床面に所定の距離に球根を並べ、細型の移植鏝で穴をあけながら球根をそれぞれの深さに穴に入れ埋める。植込みがおわつたならば通路の土を床面にかき上げレーキで均し、その上を平鍬等で圧えて球根を安定させる、床面を通路より一〇㌢位高くすれば融雪期における流水による球根の露出が避けられる。

**球根類の栽植基準表**

| 種類 | 植込みの深さ | 球根間の距離 |
|---|---|---|
| クロッカス | 二・五倍 | 八〜一〇㌢ |
| ヒヤシンス | 二〜二・五 | 一二〜一五 |
| 水仙 | 一・五 | 一五 |
| チューリップ | 二〜二・五 | 一二〜一五 |
| 黒百合 | 二・〇 | 一〇〜一二 |
| ひめ百合 | 一・〇 | 七 |
| 鉄砲百合 | 二・〇 | 一五〜一八 |
| すかし百合 | | |
| 為朝百合 | 二・〇 | 二五〜三〇 |
| 鹿の子百合 | | |
| イリス類 | 二〜二・五 | 一〇〜一二 |
| 早咲グラジオラス | 一・五 | 一〇〜一二 |
| アネモネ | 二〜二・五 | 一〇〜一二 |
| ムスカリ | | |

註　植込みの深さは球根の高さに対する覆土の厚さ。

**植込み畑の準備**　球根を植込む畑地は、日当りがよくやや軽い排水良好なところを選ぶ。畑地は深さ二五〜三〇㌢ぐらい掘上げ、基肥を施し十分混和しその上約一五㌢土を入れよく整地する。この際土塊はよく砕き肥料も堆肥は腐熟したものを用い、有機質肥料もそのまま施すと翌春開花期になつて醗酵して生育を害することがあるから、一旦醗酵させたものを他肥料に配合の上施用する。

**施肥量**（一〇㎡当り）

油粕六〇㌔　魚粕六〇㌔　過石三五㌔

加里二〇㌔（草木灰一〇〇㌔）

なお切花にする場合は葉を三枚以上残すようにすれば球根の肥大にさして影響はない。また花が了つたならば必ず子房を摘み取り結実させぬようにする。

## 秋植球根の鉢植栽培

球根は開花までは水分を与えるだけで球根内の栄養分により生育するもので、水栽培はそのよい例である。露地栽培と違い用土の少ない鉢植や水栽培に用いる球根は大球ほど立派な花が見られる。

**鉢植**　に適する耐寒性の秋植球根としては、草丈の低いクロッカス、ヒヤシンス、ムスカリ、アネモネ等の外チューリップでは矮性の早咲種及びメンデル種、トライアンフ種がある。鉢植の時期は露地栽培と同じであるが、植込み鉢はそのまま戸外に置き一度かなり強い霜に遭わせてから温室に入れる。しかし寒地の一般家庭では一〜二月の厳寒期は屋内の温度や湿度の関係上管理が困難であるから、予め植込み鉢を縁の深さに埋めて更に七〜九㌢覆土して置き融雪期以後に屋内に入れる方が栽培容易である。

植込みの深さは露地作りよりも浅くして、扁円小球のもの以外は球根の頂部が露出する程度にする。クロッカスは中大球で三寸鉢に二〜三球、四寸鉢に四〜五球、アネモネは四寸鉢に一〜二球、覆土を一〜二㌢とする。ヒヤシンスは一五㌢（五寸）球で五寸鉢に一〜二球、ムスカリは四寸鉢に二〜三球。チューリップ及び水仙は五寸鉢に三球位とする。